

23

山本
Z 3

樂園  
おち葉

第二十三籠





# 樂園おち葉

奥村多喜衛手記

## 第二十三籠

近頃布哇の火山は死滅したとの噂があつた時。ヂヤガー博士はまだ死んだのではない必ず活動する時があると云はれた。私は昨年二月友人と火山ホテルに宿泊し近傍を見歩いた時、其處にも此處にも地から煙が吹き出て居るのを見て。成程火山はまだ死んだのではあるまいと思ふたことであつたが。果然今回マウナロアが噴火シラバが流出して居るとの報に接した。ヂヤガー博士はキラウエアも近いうちに噴火するであろうと云つたことが新聞に報ぜられた。或は遠からず實現するかも知れぬ。私は一九二二年一月から全島に亘る啓發運動を起し。つゞいて日系市民會議を



始めは等用務のため。毎年二回は全島各地隅から隅まで残らず巡回し。戦争の始まる一九四一年九月頃まで二十年間継続したが。ハワイ島に行つた時はヒロ樋口君或はホノム會我部君の家に泊めてもらい。樋口君の自動車で毎夜各所の集會に送つてもらつた。故に運動終つて歸る前には必ず會我部、樋口兩君を伴ふて火山ホテルに一泊し。共に語り共に休むことを例とした。一九二四年七月樋口君と共に火山ホテルに宿泊した其夜。キラウエア噴火口大活動を始めたので。其壯大美麗なる實景を見。翌朝は火口近くまで行つて見。吹飛ばされた小さな石片を拾ひ紀念に持歸り。文鎮として今にデスクに置いてある。

X X X

コロネル・チャチワードの著したムー大陸に關する書物三冊は面白く讀んだ。其説に由ると、太平洋の眞中に長さ七千哩幅四千哩の大陸があつた。エデンの園も其所にあり人類も二十萬年前其處にできた。それが次第に増殖し五萬年前には十の種族となり。それが世界各方面に移住し發展した。處が一萬三千年程前に此大陸は火山地震津浪のため沈没した。其大陸の幾部分が諸所に残つて居る。北方のはしが布哇諸島で南はマーシャル群島やギルバード群島など南洋の島々である。チャチワードが五十年かゝつて世界各地を調べて歩き。色々の遺物を發見し色々の経跡を

認めて書いたもので。頗る興味を感じさせられた。其所説から考へると布哇諸島も火山系に屬して居るので。オアフ島にはボンチポールやダイヤモンドの如き死火山の跡があり。マウイ島のハレアカラの如き。高さ一萬三十二尺の山頂に在る周圍二十哩の世界最大の噴火口がある。是等はムー大陸沈没の時の遺跡と思はれる。ハワイ島のキラウエア及びマウナロアは十數年前までは斷へず活動して居た。キラウエアの如きは何時往つて見ても噴出さない時でも。百五十尺位の穴の底には斷へず火の波が動いた居た。噴火山と云ふよりは火の池で。火灰や焼石を半空に吹飛ばすのでなく岩石を煮へ返らして居たもので。随つて少しの危険なく溶石の床を歩いて安全に火口に近づくことができた。時々これが大活動する時には底の火の波が段々上に湧きあがり。終に溢れてラバが流れ出る。それが草原や森林を焼き海にまで流れ落つるのである。昔時土人は溶石の湧いて居る穴をハレマウマウ（消へざる火の家との意）と稱へ。ペレと稱する女神の住家であると信じ。近傍の岩上に宮を建て祭司を置き祭事をつとめさせた。其火池が漸く活動を始めると豚や鶏或は魚などを火池に投じ。火神の怒を柔げ溶石の流出を止めようとした。一八〇一年の大活動の時の如き鶏豚の供物にては静まらぬので。カメハメハ王は己が頭髮を截つて火中に投じ。火流の停止を祈つたと傳へられて居る。兎に角アラタカな神として恐れられ。種々の禁制が



設けられ厳守されたものである。

× × ×

一八〇〇年頃ヒロの大酋長ケアウエ・マウヒリの娘にカピオラニと云ふのがあつた。身は王族の裔であつたが無智昧。布哇の習俗により數人の夫をもち大酒に耽り頗る醜行を恣にした。所が或時宣教師に出會ふて其話を聞いた。不思議にも其福音の聲が彼女の良心を喚起し翻然として悔悟した。つゞいて宣教師の教をうけ斷然身を縛つて居た悪習を打切り。數人の夫と關係を斷ち。當時雄辯家として聞へて居たナイヘが。彼女の信する新宗教の傳播を助けるとの條件にて正式に結婚した。彼女の性質一變して柔和謙遜なる淑女となり。人民を福音の光に浴せしめんと熱心は燃ゆる様になつた。當時偶像は已に廢止せられ禁制は全く撤去され居たのに。ペレ女神に對する迷信は尙ほ去らず、ペレに關する禁制は固く守られて居たので。カピオラニは此迷信を打破して眞宗教傳播の妨害を除かんと決心した。

一八二四年十二月、カピオラニは火山に上り。ペレ女神に對する迷信を破り。序にヒロに出て宣教師を訪問しようと其居村なるコナのケアラケアを出發した。此事を傳へ聞いて人々遠近より集り來り彼女の袖を曳いて其行を止めんとした。其夫さるも其冒險に反對したが。彼女の決心

を翻へさすことができぬので。八十餘名の人々は彼女に扈從することゝなつた。當時馬もなく驢馬もなく全く裸足で百哩の道を歩き。非常なる困難を経て漸く火口に近づいた時。ハレマウマウの祭司なる女どもが彼女を迎へ。聖なる地域内に足を入るゝならば女神の怒に觸れて殺さるゝことを警告したが。カピオラニは聖書の句を引き眞の神に就て語り聞かせ且つ。若し我れペレの崇にて死せばペレを信ぜよ。されど我れもし。ペレの崇に逢ずば汝等は我が眞の神に従へと云ひつゝ。其あたりに實り熟せるオヘロの果を取つて食ひ。先づペレに献げた後でなくば食ふべからずと云ふ禁制を破り。進んでハレマウマウの坑の崖に立ち燃ゆる火の池に石を投げ込み。聲高らかに讚美歌を誦へば。懼れ慄き手に汗を握つて様子を伺ひ居たる從者の人々も之に唱和し且つ一同跪いて神に祈つた。かくてカピオラニは信仰の大勝利を得て悠然山を下り。残る旅路を安全にヒロの地に着した。

四年前までは自らもペレの迷信に囚はれ。火の神の怒を恐れて禁制を守つたカピオラニ。一たび福音の光に照さるゝや全く生れ變つたものとなり。女の身で嶮を踏み危きを冒し。全島民の迷夢を醒し其蒙昧を啓きたるは。布哇に於ける有名な實話である。私は火山に往く毎にこの故事を想起して靈能の助けを感謝するのである。



諺に女は弱く母は強しと云ふ。女一たび子をもち母の愛を實驗すると。其性格は全く變つて来る。凡ての苦難を忍び身をさき骨を砕いても敢て辭せざる。男の眞似のできない底力ができてくるものである。其女が一たび神の愛を知り誠心神を愛するものとなれば。其信仰行動敢て男に譲らないものとなる。キリストに従ひ奉仕した女達の事を考へても分る。最後にヨハネの外弟子等が姿を隠した時にも、女達は十字架の傍にまで往いてキリストの最後を見届けた。一番先にキリストの甦りを知つたのも女達であつた。其後パウロが初めて歐洲に道を傳へんとしたとき。一番先に迫害を恐れずキリストに従ふたのは。紫を商ふテアテラの女であつた。ハワイに宣教師渡來して最初に洗禮をうけ傳道の門戸を開いたのも女であり。殊に火山のペレ女神に關する迷信を打破して大に傳道の助けをなしたのも女であつた。信仰に於ても女は強い。今日の教會にも篤實なる女性の多からんことは我等の熱望する所である。



## 亡妻七周年紀念

(三月五日)

是迄多くの兄弟や姉妹達から逝いたミセスの事を書いてくれとの要求が屢々あつたが。實は別

に取り立て、書く様なことがないので今日まで閉流しにして居たが。今年三月五日亡妻七周年を紀念せんとするに當て。色々過去の事を追想し聊か感ずる所もあるので。多くは一家の私事に屬することであるが。念ふ儘を書き列ねて追慕の意を表し。併せて愛する兄弟の厚意に酬いたいと思ふのである。

妻の名は勝、其父は小川三四郎、母は奈良房。家系に就ては餘り多くは知らないが。私の耳に残つて居ることは。祖先は小川吉太夫として紀州日高郡に三里四方の蜜柑園を領した豪農であつた。其三男三郎兵衛が大阪に出て米穀商を營み家號を佃屋と稱へた。それが六代前の先祖である。佃屋の米店は大坂西區江ノ子島。元の府廳の上隣りにあつた。私は明治十八年大阪に出て取敢ず府廳内の一部に奉職し。毎日佃屋の前を往復した。且つ私の上官が佃屋の裏のはなれ家を借りて居たので。私は屢々これを訪問し其度毎に店を通りぬけて出入し。其間三四郎氏にも懇意になり其一家の人々とも知合いになつた。翌歲即ち明治十九年の秋三四郎氏は病死した。私は後事を托せられ其次の歳の一月に勝と結婚した。明治二十年の中頃から郷里の舊友に促され政治運動に引ずられて東京に行いた。其頃私の母も末弟も大阪に呼寄せて居たので。家事は是等に托し生還のできない覺悟で壯士仲間に加はつたが。事態愈々切迫し保安條例の發布即日之が實施となり。全國



より集つて居た志士は残らず帝都三里以外に放逐となつた。其時星亨、尾崎行雄の兩人は洋行し、他の頭領株は命に從はないので石川島の獄に投ぜられ、木葉武者なる壯士達は凡て東京三里外に追出された、私は途中二ヶ月程費して大阪に歸つた。

大阪に落付くと郷里姻戚の後援で土佐の物産商業を始めたが士族の商法で失敗し、當時吳鎮守府創設の際で田中某に勧められて、請負事業の仲間に引込まれたが、全く詐偽にかゝつたので家産凡てを失つた。無一物の身となつた。私は手も足も出なくなり、動けば動く程窮迫に陥るので、日々の生計のことは妻のする儘に一任し、私は神の祐助指導を祈りつゝ、讀書に日を過した。此時初めて妻の眞價を認めた。米屋の箱入り娘で三味線の如き遊藝や縫針は少々習ひ、小學校へも通つたが學問としては何もなく、家事の経験とてもなき彼れ當時漸く二十一才。果してどれだけの事ができるか無論心配ではあつたが、自分としては他郷のもの誰一人頼るものはなく、固より教會には相當信頼したものはあつたが、斯る事を相談する氣にはなれず、郷里へは尙更に言ひ難いし、已むを得ず妻の云ふまゝにまかせた。其頃家には私の母の外に祖母も来て居た。兩人とも衣服の仕立が非常に上手であつたので、宮川牧師を始め主なる教會員の家々に頼んで、衣服の洗い張り仕立直しなど引受け、妻が取集めに往き仕上げたものを送り届けるため、毎日大きな風呂敷

包を重そうにかゝゑて幾度となく往復した。時には屑屋を呼び入れて道具類を賣り拂ひ。又時には大きな風呂敷包を携へて質屋に往く。彼女は相當澤山の衣類や化粧道具など所持して居たが、凡てを賣り盡し終には着換一枚帯一筋の身となつた。次男春樹が生れた時の如き前日筭を賣つた十三錢ほかなかつた。

其頃私は大阪教會創立者の一人今村謙吉氏が、其經營する活版所福音社から大阪青年會の機關雜誌『青年』を出版して居た。其編輯人が渡米したので私を後釜に引出してくれた。月一回位なれば何でもないと思ふたが、來往の名士に接して其談話や其演説を筆記して掲載せねばならぬので随分忙しかつたが、併し接する人々が殆んど皆教界の名士であつたので、不知不識のうちに私自身大に教育され感化されたのであつた。次の歳の元旦宮川牧師が我々青年に對し、君等は神の指導を受けて己が天職を見出せとの忠告をなした。そこで私共十四五名の青年は申合せて一週間祈禱會を開き、自分の生涯に何を爲すべきかと考へ且つ語り合ひつゝ神に禱つた。其時私は考へた自分は父に従ふて色々の事業を營み、或は商業も試み或は官吏の端くれに列し、又た或は政治家の提灯持ちもやつたが何一つ成功したものはない。併し一つ残つて居るものは傳道者となること。傳道者となれば一人救ふても千人救ふても同じく傳道者。唯其使命に全身全靈を献ぐればよ



いと決心した。其歳の九月給費生として同志社神學校に入學した。宮川牧師は私に對ひ君程ヒドヒ貧乏したものはなからうが。併し君の様に立派に切り抜けたものは甚だ少いと云はれた。その切り抜けたのは私でなく全く妻の働きであつた。

神學校卒業後すぐ私は布哇に來た。三ヶ年の約束であつたので。留守宅は依然妻や母に托し置いた。私の給料は一月二十五弗であつたので。自分は十五弗で生活し毎月十弗づゝ妻に送つた。滿二ヶ年の後即ち一八九六年九月私は一週間の休暇を得、友人の家に休んだ友人は晝間店に出るので。私は一人靜かに過去を顧み將來を念ひ。結果斷然永住の決心をなし範を在留同胞に示さなければ。到底教化の實は擧げないと考へ。直ちに往いてギュリキ師に圖つた。師は大に賛成しハワイアン・ボードは私の往いて家族を纏め來る費用を支給してくれた。恰もイギリス船モンモウスシエアー號入港し。明日日本に向け出發すると云ふことを聞き。匆皇旅装を整へて之に乗船した。其時の船賃は僅かに十五弗であつた。船は僅に四百五十噸而も帆檣が高くて屢々四十五度位まで傾き。人も荷物も一方から一方へころがると云ふ状態。十四日間の難航海を経て横濱に着した。前以て家に通知し置く時がなかつたので。着後横濱から電報を送り一家を驚かした。先づ母の承諾を得、母は弟に托し祖母は其實子で小栗家を繼いで居る者に預け。僅かに三週間に

て萬事を片付けた。其頃はまだ交通が頻繁でなく。一船遅るれば一ヶ月も待たねばならぬのでかく急いだ。私はホノルル出發してから一ヶ月半めには、妻と三兒を伴れてホノルルの人となつた。さて愈々布哇永住の仕事に踏出すに當り、私は妻に向ひ教會の事には一切口を出してはならぬ。其代り我一家の事には私は一切喙を容れぬ。夫婦分業であると言ひ渡した。是は日本で立派な牧師が細君のエライため失敗したものを多く實見して居たからである。其頃は又ア又教會の牧師で裏の小さなカッターに居た、私は日本に往く前已に二人の子供を預つて居たが、愈々ホームマザーが出來たと云ふので簇々子供を預けに來る。忽ちにして十餘人になつた。狭い牧師館の一室を子供の寢室に充て。上下二段の小さなベッドを作らせ四方の壁に添ふて置き。私自身の子供も共に之に寢させた。段々に子供が殖るので隣の家を借り。二階を子供の寢室に下をクック學校にした。其頃の寄宿費は一月三弗五十仙であつた。三年目には入宿者四十人に達したので。ククイ町西島ドクトルの向側支那人の大きな建物の在る處。相當大きな家屋敷を買収して之に移つた。此時分の寄宿生は八九才から十二三才位の少年で。在宿年限も随分長く。一番長かつたのが十六ヶ年大程は七八年から十年であつた。尚ほ次第に寄宿生が増加し平均七十人に達したので。ボンチポール街元神學校舎であつた建物に移り。其後色々の事情で轉々して現在の場所に



落付いた。飯タキを一人雇ふて居るだけで一切他人を加へず。食事のコンダテから子供の世話まで凡て妻の任務で私は米の相場も醤油の代價も知らずに済んだ。其上妻は子供の寝小便クソタレの始末から衣服の着換まで世話した。一通りの骨折りではなかつた。私は隔月に一度位は島行、時には日本又は大陸の旅行。長いのは六七ヶ月から二三月島行は一二週間。留守中の諸事一切妻の肩に負はせた。嘗て私の實子一人が生後一ケ年にて病に罹つた。ドクター・デイの診察を受けさせた。ドクターは一週間とは生きまい薬を與へても駄目である。氣持を楽しくするものを與へようと曰つた。私はそれではあきらめることができないので懇意な日本醫師に相談した。略ぼ同じ意見で一週間とは曰ふまい一ヶ月はもつてであろうと曰つた。それでも満足ができないのでドクトル・ハーバートに往いた。ドクトルはかゝる病兒を扱つた経験があるから全力を盡してみようといはれた。それで妻はドクトルの指圖通り凡てを實行した。多くの子供をひかゝて忙しい中にも全心籠めて介抱した。數ヶ月の後全く快癒した。ドクトルに禮に行くとドクトルは我れが癒したのではたい。マザースラブで癒したので曰はれた。子供のうちには色々の性質のものが居たが妻は少しも愛憎の區別をせず。手癖の悪いのも懇に訓戒し決して叱つた事なく。先生（私を指す）に知れたら叱られるぞと戒めた。故に不良のものも大程良くなつた。

妻は無學であつた故に腦裡に胸中に先入主となつたものが何もなかつた。結婚後二年目に私と私の母と妻の三人共に洗禮をうけて大阪教會員となつた。それ以來基督の教が全然彼女を支配し全生涯信仰一遍で通した。どんな困難でもつぶやいたことなく。どんな無禮も抗言したことがない。粗末な日本服に粗末な帯をめて朝より晩まで働き。丸で下女、給仕、子守であつた。折々



銀婚式撮影

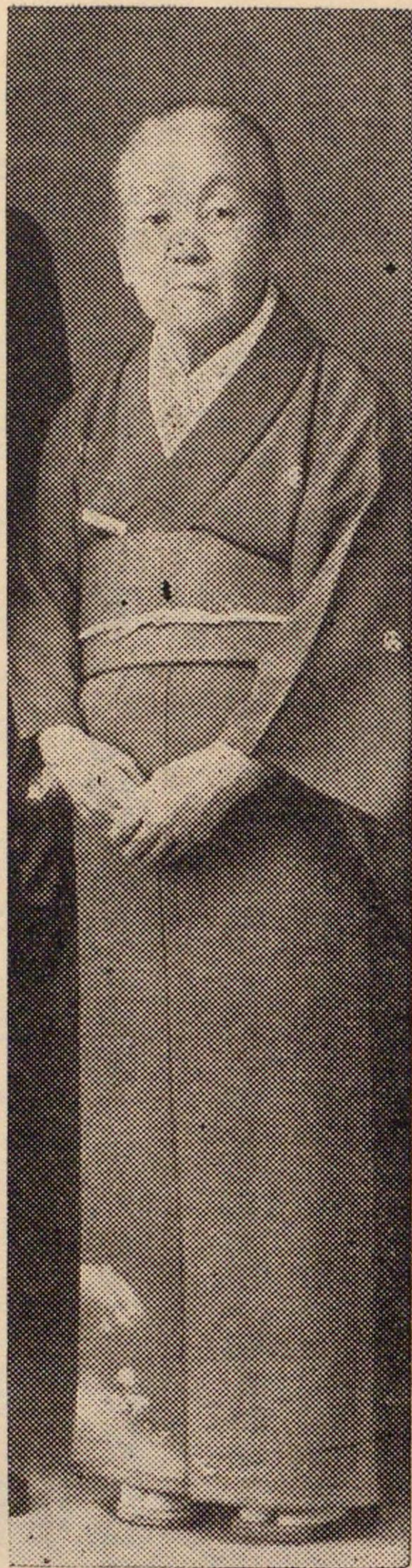
來客があると迎へて挨拶すると。彼は奥様にお目にかゝりたいと云ふ。私がかみ内でありますと云へば驚いたと笑つて居た。併し私は内外人の家庭に集會に招かれた時には必ず妻を同伴列席した。故に相當人々に知られて居た。一九二五年私が六十一の誕辰を祝ふた歳に。妻と共に日本に歸つた。夫婦同伴旅行したのは布哇に來て三十年目であつた。友人等は舊婚旅行かと笑つた。妻



は若い時の趣味は全くななくなつて。暇さゝあれば赤穂義士傳を讀むを樂んだ。同じ本を幾度も繰返し讀んで居るので。私は變つた義士傳或は大石良雄傳を見つける毎に。求め來て彼女に與へた。今は皆紀念に残してある。妻は布哇に來て五十年一度も洋服を身につけたことなく。死ぬるまで日本服と大阪辯で通した。又た彼が欠したことのなかつたのは祈禱である。毎晩寝る前にパーラーに獨り靜座し聲を揚げて祈つた。先づ私の事を祈り次に梅太郎次に冬樹と。一々子供の名を擧げて祈り最後にホームのために祈つた。私の娘の一人はお母さんは毎晩のお祈りに同じ事を云つて居ると笑つたが併し其祈禱は不知不識のうちに子供に感化を與へた。妻の生涯を一言で云へば。彼女は主に事へる如く夫に事へ、自分が神に愛せらるゝ如く子供等を愛した。

妻は病苦など訴へることなく大程のことは辛抱し押通した。最後に發病したのは一九四一年十一月からである。つまり戰爭始まつて以來ニューヨークに在る子供等の事を心配し。或は大勢の子供を引受けて居て米はどうなるか醬油はなくなりやせぬかと。何や彼と心を勞し氣を痛め心臓を弱めたのが原因であつた。病氣は一進一退であつたが。翌一九四二年三月五日永き眠に就いた。一八八七年一月十五日結婚し一九二二年一月十八日銀婚式を擧げ。一九三七年三月二十日金婚式を祝ふた。男女十三兒を擧げたが二兒は死産一男兒は一ヶ年にて病没。男兒三人は何れも二十

才前後で相繼いで斃れた。残る七人男四人女三人は何れも健在。私共夫妻同棲は實に五十五年。其永い間彼女は私を扶けて貧乏困難悲哀の連続せる生涯であつたが。精神的には常に人の知らない光榮と満足を感じて居た。(寫眞は金婚式當日うつしたもの)



妻が永眠の二日前即ち三月三日の夜。私は妙な夢を見妻は死ぬると思ふた。夜半二時頃からどうしても眠られない。色々の事を考へ終に左の一詩を作つた。妻を驚にたとへ私は幼少の頃から梅が好きであるので自分を梅に比した。

嗚呼汝黃鳥 托命瘦梅枝 耐寒借苦節 相和報春至 經年五旬五 飛上向天離  
今回永眠第七周年に會ひ色々過去を追想し。彼女が盡してくれた心情は一時も忘るゝこと



できぬ。古人が月瀬梅林を歌ふた詩に横斜疎影水靜淺 暗香浮動月黃昏の名句がある。其句中の疎影、暗香の語をかりて紀念のため左の一詩を賦した。

鶯去七年追慕長 綿々往事不能忘  
瘦梅今尙留疎影 數點殘花放暗香

◎……………◎  
教 話  
◎……………◎

### 教會に於ける婦人の分野

今日は凡ての事業に分業法が行はれて居る。而してそれが事業の發達能率増進の基となつてゐる。これが家庭に應用されて夫、妻、子供等各々其分を盡せば。家庭は圓滿に且つ仕事はかどる。これが教會に應用されるれば教會は平和に着實に進步する。固より劃然と區別する事はできないとしても。略ぼこの分業の法を取るとすれば。教會に於ける婦人の分野は何であらうか。今日の布哇及び他地方の教會現狀を視察して。一番薄らいで居るものは何かと云へば。私はそれは祈禱に對する信仰、祈る精神であると念ふ。何れの教會に行つても祈禱會の淋しいことは事

實である。よし少し人數の多い所でも祈禱の精神が燃へて居るとは見へない。教會の力の弱いは全く之が爲である。而してこの祈禱は凡ての信者の爲すべき分だ。男がやる女がやると分けるべきではない。が併し私の希望は女自身が祈禱を以て自己の分野と定め。他に優つて自分等でおふべき務であると考へてもらひたい。聖書を教へるとか、家々を訪問するとか、病者を見舞ふなどのことは。女としては家事や時間の都合できない方が多いであらうが。教會のため傳道事業のため祈ることのできない女は一人もあるまい。而してこれが色々の教會事業に優つて大切なることで。これが實に教會の生命となり動力となるのである。

ムーヂー先生の祈禱の力と題する説教の中に左の事實が話されてある。一八七二年先生休養旁英國の宗教界を視察せんとロンドンに赴き。一夜小さな教會の祈禱會に列席した所。閉會後牧師から次の日曜朝夕の説教を頼まれた。先生は依頼に應じ朝拜に出てみると。堂内冷かに説教は空を搏つ如く感ぜられたが。夕の集會は堂内の空氣一變し。説教後四百人が立て悔改奉教を告白すると云ふ狀景。先生も非常に驚いたが。後に靈能の働きを起した事實が分つた。其教會に姉妹二人の信者があつた。姉は壯健であつたが妹は病身で常に床に就いて居た。妹は出て教會に盡すことができないので只管教會のため祈ることを務めた。教會に活氣のないことを聞いて嘆きつ



祈るうち。新聞紙上に米國に於けるムーデー先生の靈の働きを読み。何時か先生の來援を得たいと祈りつゞけた。日曜の朝姉が教會から歸つてムーデー先生の説教があつたことを聞いた時。妹は自分の祈禱の聽かれたことを喜び。特に其日は斷食して熱心に祈つた。結果前述の如く夜の集會に聖靈の降臨を見たのである。ムーデー先生はロンドン市に彼女を知るものは稀であろうが。神は彼女を知り其祈禱に應へ玉ふたと云はれて居る。

大阪の宮川牧師は我には有力な近衛兵がある。それは我が爲めに熱誠神に祈る教會の婦人であると常に語られた。今日の教會にはロンドンの一病婦の如く祈る女が必要であり。我々牧師には宮川牧師が有て居られた様な近衛兵がほしいのである。

明かに天の父を認め祈禱の應答を信じて居れば。祈る人自身の心清くなるは無論であり、更に大なる祈禱の應驗即ち靈の働きを見ることが出来る。かく色々の理由から考へて。私は教會の婦人達が祈禱と云ふことに己が分野を置き。眞劍に之を努めてもらいたいのである。この精神が行渡り實行されてくれば。神を知らざる夫は必ず悔い改める。其家から決して不良少年の出でくる氣遣はない。而して教會の祈禱會が盛んに且つ力強くなり。教會が凡ての點に於て活動してくることは受合である。

就ては直ちに之が實行にかゝり。毎日二十分三十分を祈禱に献げること。必ず教會のため牧師のため祈ること。救ひたい人を定め其名を擧げて祈ることを努め。同時にでき得る限り教會の祈禱會に出席し。少くとも婦人が席の半ばを占むる様に勵んでもらいたい。是れは今日の教會に取つて最も大切なる緊急事であり。信者家庭に取て最大幸福の土臺である。

## 牧會餘談

(十五)

私は一九一二年四月から世界一週の旅に出た。其踏出しにアメリカ大陸各地を巡遊し。ニューヨークには三週間滞在。其間第一のサンデイにはブロードウェイタボネークル教會に出席した。當時の牧師はチャールス・イー・デフワソン博士であつた。博士聖壇に立つや姿勢端正。純々として教義を説き。聽者をして襟を正して傾聴せしめ。一々靜に考へ腦裡に胸中に收めしむる様な態度であつた。其時私は是こそ牧師としての最善の模範であると感銘した。爾來博士に對する敬仰の情厚く、其後博士の著書は色々讀んだ。中にも The Character of Jesus 及び The



Character of Paul の二書は殊に精讀した博士齡七十に達し愈々現職を辭すると云ふ時、告別説教をなした。其うちに左の言句がある。

『ブロードウエー、ファイフスアベニュー或はパークアベニューなど。此近傍の町の角々には必ず教會がある。それが近代式と稱へて音樂禮拜であるとか。ムービーで説教を説明するとか。甚だしきに至つては會堂に於てダンスをなしカードパーチーを催し。競ふて娛樂を以て群集を引寄せんとして居るが。我教會は余が牧會期間即ち過去三十年の間に。かゝる事をなしたことは一度もない。』

ブロードウエーイタボネーケル教會が。嚴然たる信仰に立ち今日の盛大を致した理由が是で分る。

一九〇六年キナウ町ペンサコラの角に前のマキキ教會堂を建設した時。其頃大陸ではインスタチューショナルチョウチと云ふのが流行して居たので。私もそれに倣ふて日曜禮拜の外週間何にでひ用いらるゝ様にとの考へで。あの會堂を建築させ而して色々の事をやつて來た。所が數年経て後私は會堂に禮拜に集る人々のうちに。神の前に集つて居る様な氣分が起らない様な風が見へ。又た其様な感想を聞かされ。會堂改築の必要を感じて來た。七八年の後教會が設立二十五年を祝するに當つて。私は會員と相談して新會堂建設の計畫を發表し。現在の敷地を買収し日本古

城の型に建築させた。新會堂のチャペルは全然宗教的禮典にのみ充て。サンデイスクールや其他諸種の會合には一切用いないことにした。此禮拜堂ができると共に會員の心も振肅し。堂に入れば神の前に居る様な心持になると言つた。

今日所々の教會を見て飽足らぬものがある。或は時勢が違ふとの辯解も聞くが。たとへば人間の生命に必要なものは空氣と水である。六千年前の人類も文明の絶頂に達した今日の人々も水によつて生きて居る。今日は赤い水黄な水を作り或は甘い酸い味をつけて興味を曳いて居るが。其色や味は何の役にも立たぬ。生命をさゝるものは純粹なる水である。キリストは其教を否キリスト御自身を水にたとゑ。活ける水を汝等に與ふと曰はれた。昔も今も活ける水さるあれば靈的生命は保たるのである。神學や科學や色々のもので色をつけ味をつけて人を引寄せても結局生命も與ふるものは活ける水である。今日の時勢は全く變つて來た。人々娛樂を追ひ求むる世となつたが。此間に立つて教會は嚴然として活ける水即ち純福音を宣傳する時。初めて世の鹽となり光となり得るのである。

## 哀悼

▲昨年末から新年にかけて幾つも悲哀なる報に接した。第一は加州デルハイの弓削善四郎妻君の訃音である。昨年同地に行き同家にて午食に饗せられ



た。其時妻君は高血圧のため病床にあつた。もふ起きてもよいが醫師の勧めに従ひ暫く休養して居ると。依て祈禱を献げて相別れた元氣そうに見へ大丈夫と思ふたが。其悲報に接して驚いた。

▲牧師山鹿讓夫人永眠のことは羅府の友人横川金助君から知らせて来た。昨年同地滞在中一サンデーの朝山鹿君の教會で説教した時。夫人病氣のことは聞かなかつたが、突然の報知に驚かされた。固より我等遅かれ早かれ天の父の家に移るべきは覺悟して居るが。現職に在り殊に活動を要するとき。内助の夫人を失はれし事は山鹿君のため又教會のため哀悼の極である。只管聖靈の慰安を祈る。

▲日本に於ては信仰の友本間俊平君の永眠の報に接し。次に岡山の山口平治君から妻君が四五日の病で永逝されたとの報知があつた。まだ若くして力と頼む片腕をもぎ去られた様なもの。年老いた私でさる妻に先立たれて。精神上のことだけでなく萬事につけて不自由不便を感じた経験から考へ。山口君に對し満腹の同情を表するものである。

▲最近ホノルルに於ては岡崎忠義君の急逝である。君は若い時は武田忠義と名のり永い間私の家に居たが、岡崎音次君逝後その家を嗣がれた。私はアラ公園附近訪問の時には必ず其店に立寄

り君と語り合ふたことであるが。君に先立たれよようとは思ひも寄らぬこと。遺族のため切に聖靈の御慰めと力を祈るものである。

▲僅かに數日の後殆んど日と同じふして世を去つたのは。藤岡精助君と大久保良太郎君である。藤岡君はコナ出身で其父君は私と長い知り合ひであつた。精助君幼少の頃は私の家に寄宿して居たが。まだ五十を足らずして世を去つたのは惜むべきである。私に來て聖書を読んでくれとの未亡人の求により。二月三日午前八時クワイ葬儀所に行き聖書を読み簡單に所感を述べ祈禱して辭し歸つた。

其日午前十時から大久保氏宅にて告別式があると云ふので参列した。後藤政一牧師聖書を読み祈禱を捧げ私に弔詞を述べよと云ふので。突然であつたが所感を述べ靈を弔ふた。大久保君とは私はまだヌア又教會を牧して居た頃からの知合ひであり。殊に近年同君も私も引退の身であるので。屢々相來往し時には暇つぶしに將棋を遊んだ。一月初旬私は新年の挨拶に同君を訪問した時には。床に就いて居られたが。大したことなく次第に快方であると云はれた。圖らずも永眠の報に接して悲哀の情に堪へなかつた。



感謝

◆米國||白木次郎、清水金藏、神原茂音武、豊田カメ、川村キエ、葦澤卯三郎、山田カマ、前田重雄、安部清造、修道館、桑原米吉、國分壬午郎、松岡藤吉、山田志道、元木一治、和田正彦、高井フサ、野澤謙次郎、鳥海才助、下司竹次郎、弓削エイ、吉川仁助、赤澤秋二、寺内辰吉、池田三晋、横井重太郎、棚木秀意、魚本平吉、奥崎唯一、酒井咲子、榎本定楠、田中甲斐次郎、東矢子早▲ハワイ島||安藤久、向井シマ、八藤後吉藏、本郷寅衛、奥山朝秀、重松征太郎、吉岡熊太郎、田中満治、片岡覺馬、吾妻ヨシ、菅田龜人▲マウイ島||佐藤寄次郎、神野唯見、齋藤雪平、葛西壽藏、中島伊太郎、小池庄次、松枝善之助、内田榮太郎、同夫人、荒木ヨシ、竹原吟市、菊田春五郎、永澤明、大室茂、ブネネ教會、大岡寛、井原利雄、中山酒造雄、小林嘉作▲カワイ島||奥村松一、岡村多郎、佐田一義、横山末吉、磯田米藏、幸村久吉、和田卓、ミセス三原、横本善吉、渡邊カヨ、井芹虎男、岡村護、山崎勝太郎▲オアフ島||滿生格次、新田守造、岸並勘一、世應成事、丹治哲雄、大城長龜、村田テツ、松井京造、ワヒアワ教會、無名氏、高無万之助▲ホノルル||瀬分順郎、山本廣右衛門、國延彌右衛門、井口宇右衛門、築山清之助、松岡正一、小川百世、城戸室五郎、只、永利ミスノ、村本ナツ、吉見共治、野瀬豊太、野川ナツ、小野長藏、土屋富作、林明次郎、田畑多郎、カイムキ愛讀者、川島末之進、森川亮太郎、上原徳、森田卓郎、渡邊良吉、清水濟、長崎常吉、紀村壽作、藤本實平、大久保源一、滿生利二郎、大道政市、中川壽三郎、高崎忠八、中村条槌、中川豆腐屋、石井小雪、田畑多郎、石本ハギノ

右諸兄弟「樂園おち葉」發行費に寄附せらる謹んで芳志を感謝す。



一九四九年三月

(非賣品)

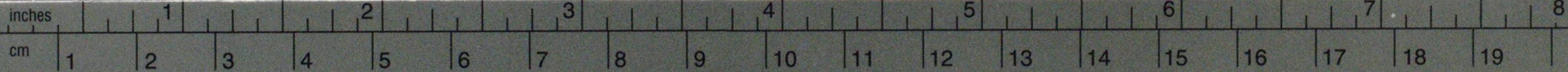
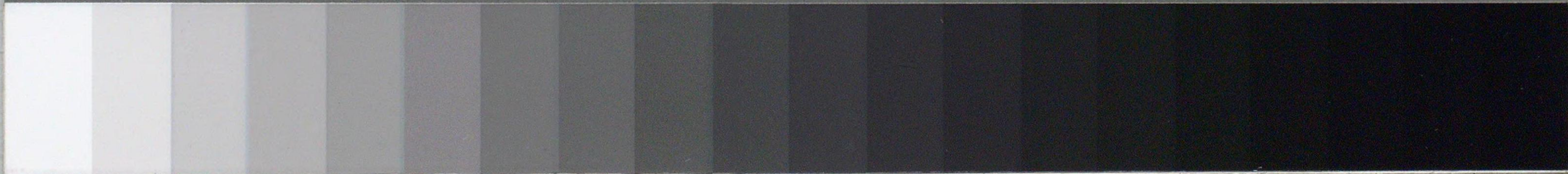


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

